

学位被授与者氏名	王 朝（おう ちょう）
論文題目	关于日本高中的汉语教学方法策略研究 ——场景教学法的构想与实施
論文審査結果の要旨	<p>第二言語教育としての中国語教育は主に大学で実施されているので、これまでに高校における中国語教育法に関する研究はそれほど見られない。本論の作者は日本の高校で中国語教育に従事する経験を生かし、このテーマについて研究を行い、ある意味で先行研究の十分でない方面に補足することになり、修論として認められると思われる。</p> <p>本論で提唱している「場面教育法」は認知機能主義言語学(cognitive-functional linguistics)の理論のもとでの日常コミュニケーション活動をメインにする「タスク教育法」の一種で、学習者が積極的に学習に参加しやすいことから言えば、高校の中国語教育に相応しい方法と考えられる。第2章での『外国語学習めやす 2012・中国語部分』に対する検証、第3章の五つの場面の設定は、教育実践に参考できる点がある。また今後新しい『外国語学習めやす』の制定にも参考資料になると考えられる。</p> <p>論文の構成、研究方法、専門術語の使用なども概ね適当で、A4用紙100頁に及んでいるが、現代言語学理論の応用が足りず、専門術語の使用、学習者の母語である日本語との比較分析は十分ではない。第3章の場面の設定は第2章の検証を基礎にしたものとは言え、前後の重複がかなり見られ、理論的分析も欠けている。</p> <p>平成28年2月16日に、北九州市立大学北方キャンパス3号館320教室において、審査委員全員出席のもとで最終試験を実施して学力を確認し、論文の説明を受け、質疑応答ののちに、全員一致で当該論文が修士(中国言語文化)として十分な内容であると判定した。</p>